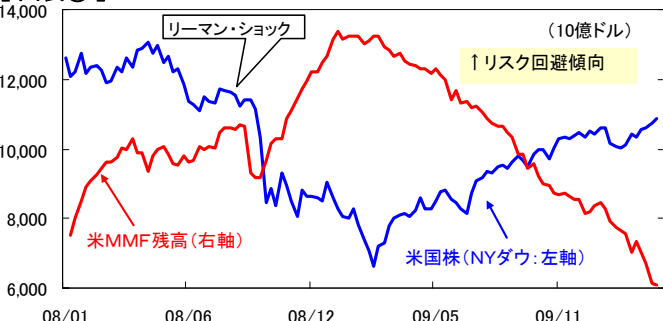


米国投資家のリスク選好度とエマージング株式市場

- ✓ 米国投資家のリスク選好度合いを観察することは、世界の金融市場の先行きを占う上で重要と史料する。
- ✓ 米国投資家のリスク選好姿勢の改善を示唆するデータに連れて、エマージング株に代表されるリスク性資産は堅調推移。

世界の金融市場の先行きを占う上で、ヘッジファンドをはじめとする米国投資家のリスク選好度合いを観察することは重要なことです。リスク選好の度合いを見る上で、図表①と②は株式指数と安全資産の代表であるマネーマーケット・ファンド(MMF)の残高との関係に注目しました。MMFの残高は投資家のリスク回避が強まると増加し、リスク選好が高まると、減少する傾向があります。現状は、MMFの残高が急速に縮小する傍ら、リスク性資産の代表である米国株が上昇し、それを後ろ盾として、更なるハイリスク・ハイリターンを追求する余裕が生まれた米国マネーがエマージング株市場に流入し、同株式市場の上昇に貢献しているかのように見えます。

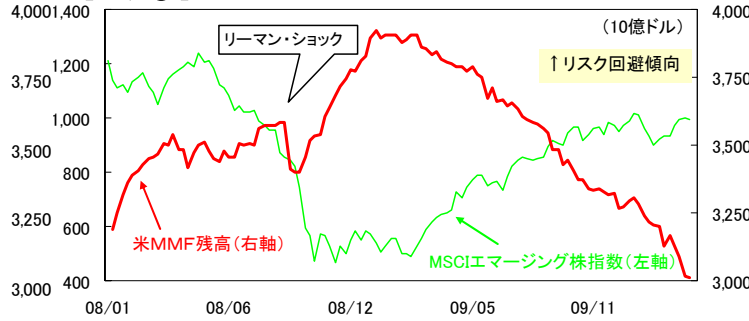
【図表①】



出所:ブルームバーグのデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

格付けの低い社債指数利回り米国債指数利回りの格差が縮小する局面は、投資家のリスク選好が高まっている時期ともいえます。この市場心理を反映するように、リスクの度合いが、より高いMSCIエマージング株指数は、BBB格社債指数と10年米国債の利回り格差の縮小に連れ高となっています(図表③参照)。一方、MSCIエマージング株指数に比べるとリスクの度合いが低いMSCI世界株指数は控えめな上昇に留まっています。

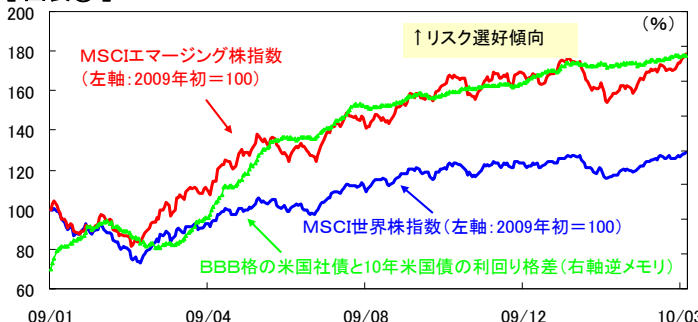
【図表②】



出所:ブルームバーグのデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

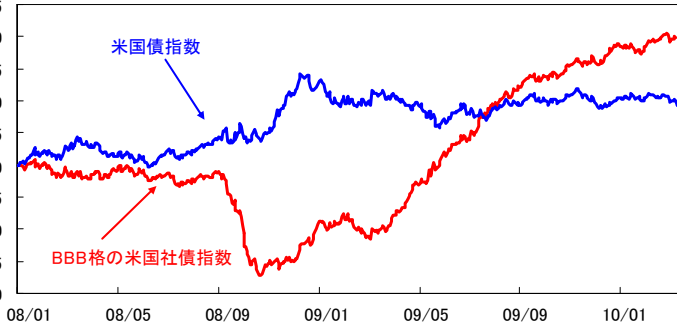
図表④は安全資産の代表である米国債指数と、よりリスクの高いBBB格の米国社債指数の推移です(2008年、年初=100)。2008年の9月中旬以降、金融危機が急速に進んだことを受けて、リスク性資産のBBB格社債指数は急落する一方、安全資産の国債指数は急騰しました。ところが、金融危機の収束と共に、BBB格社債指数のパフォーマンスが米国債指数を上回り始めました。このことは米国投資家をはじめ、世界の投資家のリスク選好が改善している証左といえます。

【図表③】



出所:ブルームバーグのデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

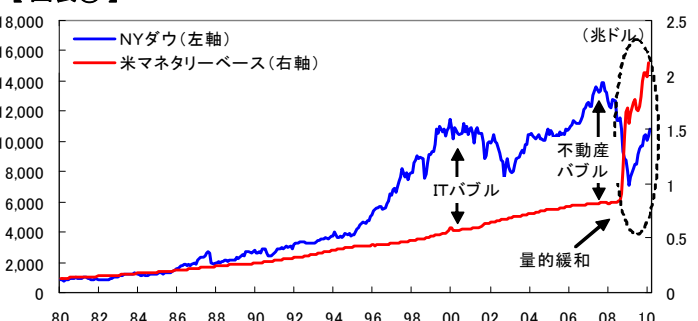
【図表④】



出所:ブルームバーグのデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

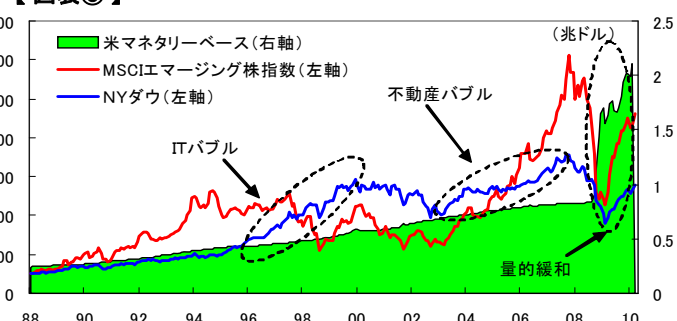
米国の投資家のリスク選好を高めている背景の一つは、量的緩和を含む大規模な金融緩和です。現状はマネタリーベース(中央銀行が供給するマネーの総量)の増加に株価が連動しているのがわかります。ちなみに過去を見ると、米国株は二つのバブル期を除き、マネタリーベースから大きく乖離することなく推移してきました(図表⑤参照)。また、米国株が上昇すると、その収益を後ろ盾として、よりハイリスク・ハイリターンを求めるマネーが、エマージング株の上昇に貢献しているようです(図表⑥参照)。この観点で、言えば、ハイリスク資産の先行きは米国の大規模な金融緩和が続くかどうかにかかっています。ちなみに米金融当局は、長期に渡る金融緩和の維持を表明しています。

【図表⑤】



出所:ブルームバーグのデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

【図表⑥】



出所:ブルームバーグのデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。〈審査確認番号H22-TB14〉